

小・中学校普通学級における障害のある子への差別や人権侵害の事例 (2020年度、共に育つ教育を進める千葉県連絡会および各地の会の相談事例から)

- ・ 中学校。2020年夏に側弯症の手術をし、体育の授業を約一年見学することになった際、レポートで授業参加の代わりとして評価してもらえないか教科担当の先生にお願いしたことがありました。実際にやってないのにレポートでは評価出来ないと断われました。通知表の評価は前回と変わらずだったので、結果としては問題なかったのかと思いますが、通知表を持ち帰るまでの間、授業を見学したことが大きく影響するのではないかと不安を感じました。

子供は筋疾患のため車椅子で生活しているので、体育の授業に参加しようが見学しようが、やれることはないというか、あまり変わらないのですが、逆に、もし参加するよりもレポートの方が評価して貰える可能性が広がるなら、レポートを提出するという評価方法も検討して頂きたいと思いました。

- ・ 中学校。入学前、校長先生に「部活動は 帰宅部の子もいますからね。」と 入部を遠慮して欲しいニュアンスで言われた。
- ・ 着替えが遅いという理由で子どもは体育の授業に参加できなかった。先生に手伝って欲しいとお願いしたが、「遅いのが悪い」「自分でできないのが悪い」という考えの先生で、手伝ってもらえなかった。
- ・ 担任に「子供が提出物を自分で出すことができない」と言われた。手伝って欲しいと頼んだが、担任は「自分でできるようになることが大事なので手伝わない」と言う。尿検査などもあり、連絡帳などの提出物が学校に届かないのではないかととても不安になった。
- ・ 中学校。障害を理由に、最初は部活動へ入部させてもらえなかった。
- ・ 小学校に入学してすぐ、まだ平仮名を全部は習っていないのに、担任から「本人が連絡帳を書けない。」と言われた。手伝うのは簡単だがそれは本人のためにならないということだった。この先もずっと何も手伝ってもらえないと感じてとても不安だしとても困っている。
- ・ 担任から、連絡帳は自分で書くものだから代わりに書くことはできないと言われて書いてもらえず、連絡事項が分からずに困っている。
- ・ 中学校。運動部への入部を希望したら校長から参加を制限する旨の手紙が郵送されて来た。そこには「●●●君（我が子のフルネーム）は能力がない」と書かれていた。

- ・ 我が子がクラスの子供達から無視され、仲間外れにされていることが分かったので、いじめとして調査して対処して欲しいと担任にお願いしたが、対応してもらえなかった。
- ・ 小学校に入学してわずか1週間で「あなたの子供は手がかかってしょうがない。」と担任から言われた。管理職に相談したが「あの先生は教育熱心な良い先生」と言われて、支援学級を勧められた。担任と管理職はグルになって支援級に追い出そうとしていると感じた。
- ・ 担任に、オムツの予備を保健室で預かってもらえないかと、聞いたところ、できないと言われて困った。
- ・ 中学校。部活動に参加するのに、時間と日にちの制限をかけられた。
- ・ 先生から「芯が折れて学校の床が汚れて困るからあなたのお子さんには、学校ではシャーペンを使わないように話しました。」と言われた。
- ・ 箸だけでは食べられないのでスプーンを使わせて欲しいと先生に聞いたが「できない」と言われた。
- ・ 入学してすぐに、担任から教育支援計画を書くように言われた。それはどのようなものなのかと説明して欲しいと聞いたが、説明するから学校に来いと命令口調で言われた。支援学級に追い出そうとしていると感じた。
- ・ 小学校入学時に学校の書類に、親の知らない障害名が書かれ、「いきなり暴れる危険な子」と書かれていたことが分かった。保育所からの支援計画書に書かれていたのが引き継がれたらしい。中学、高校、その後も一生これが引き継がれるのかと恐怖を感じた。
- ・ 小学校に入学して10日も経たないのに、担任から「学習が遅れているから」と特別支援学級に移ることを勧められた。入学前から支援学級に移そうとしていたのではないかと感じた。
- ・ 中学校。何度お願いしても、部活動参加中に「人手がない」と言ってオムツ替えをしてくれなかった。
- ・ 小学校の担任は、子供をほめることは一切しない。親に、あれができない、これができない、手がかかるとい話だけする。親に圧力をかけて支援学級に追い出そうとしていると感じる。

小・中学校普通学級における障害のある子の親の付き添い事例 (共に育つ教育を進める千葉県連絡会及び各地の会の相談事例から)

1. 学校行事の付き添いを求められ、親が断ったらその子一人だけ学校に残されて、行事に参加させてもらえなかった。
2. 「校外学習は、親がつかないと連れて行かない」と言われた。
3. 学校から宿泊学習の全行程に付き添いを求められた。親は可能な範囲で協力はするものの全行程への付き添いは断ったところ、当日子どもは一人だけ連れて行ってもらえず学校に置いていかれた。
4. 小学校普通学級入学にあたって、学校から「親が介助につくことを納得していただくまでは何度でも話し合いをしましょう。夜でも学校が休みでも、又、家でもご主人の会社でもどこでも行きますから」と言われた。
5. 学校から親の付き添いを条件にされた。母親が病気等で付き添えないときは、子どもは元気であっても登校させられず休ませている。
6. 中学校入学前に校長から「普通学級なら親が付き添いをすること」と言われ、入学後は一日中子どもに付き添った。付き添わなければ子どもの登校を認めてもらえないため、親が仕事の忙しい時や体調の悪い時は学校を休まざるをえなかった。このため、登校日数の半分程度しか学校に行けなかった。
7. 母親が付き添うことを小学校普通学級入学の条件にされ、一日中付き添っていた。母親が体調をこわして学校での付き添いができなくなったら「(子どもも)登校しなくていい」と言われた。
8. 中学1年生。普通学級にいるなら親が付き添うよう言われ、教室の一番前に固定された子どもの席の隣に母親用の席も用意され、毎日そこに座って子どもに付き添っている。授業中は、担任から子どもにプリントをやらせるよう言われ、親が子どもに勉強を教えている。
9. 中学校普通学級、車椅子使用。三泊四日の宿泊学習についての学校との話し合いで、「何かあったら他の子に迷惑がかかる。先生たちが疲れては困る」という理由で、親の付き添いを求められた。同時に「行き帰りは他生徒と一緒にバスには乗らず親と自家用車。宿泊も親子のみ別室。日中活動も親子のみ別行動」と言われ、我が子の存在・参加が全く想定されていないことに愕然とした。
10. 小学校入学時、学校から「普通学級に行くなら親が付き添いなさい、親が付き添えないなら特学へやります」と言われた。母親が病弱であることを伝えると「母親が病弱なら父親が付き添いなさい」と言われ、父親が仕事を辞め銀行ローンで生活費を補いながら子どもに3年間付き添った。
11. ひとり親であることは学校も知っているのに付き添いを求められた。働いていることを伝えると「えっ、仕事しているんですか？」と。それでも付き添いをさせ

られ、平日昼間は学校の付き添い、学校が終わってからや休日に仕事をした。

12. 中学生。宿泊学習の際、親は何かあった際にすぐに駆け付けることができるようにと近くに宿泊し呼び出しに備えた。
13. 小学生。面談の時に「えっ、プールに入るんですか？」と言われ、入るなら親が付き添うように言われた。子どもがかわいそうなので仕事を休んで付き添った。
14. 小学生。宿泊学習には普段医療的ケアを行っている看護師は付き添えないからと親の付き添いを求められた。
15. 中学生。校外には看護師は派遣できないという理由で校外学習に親の付き添いを求められた。
16. 小学生。看護師の勤務時間が子どもの登校時間にあわず、看護師が来るまで親が付き添うよう言われた。
17. 中学生。修学旅行の班別活動において生徒とではなく職員と数か所だけ巡りあとは宿舎待機と言われ、結局、親が修学旅行先まで出向き一緒に巡ることになった。
18. 小学生。運動会では職員が忙しいので、親が子どもの近くに付き添うようにいわれた。
19. 小学校1年生。運動会の時、担任から我が子だけ親が子供の側に付いているように言われた。
20. 中学校。入学当初、支援学級の先生から電話で支援員さんが来ない曜日は介助が手薄になるので、ボランティア等を検討している。また、ボランティアはなかなか見つからないのが現状であり、ボランティアは家族でも良い。給食が出ます。というような話がありました。付き添い等は一切お断りしますということと、親が付き添うことが子供にとって良いとは思えないこと、常に付き添う以外のことで必要な協力はするつもりだということを伝えました。その場で解決し、その後このような話はありませんが、子供の学級担任からでなく、支援学級の先生からの電話であったことにも納得できず、(担任より制度について詳しいからという理由でしたが)学級の一員として何かあった際は学級の担任からお話を頂きたいとお願いしました。

話し合う中で出た、支援学級の先生からの「学校にお任せですか？」という言葉が今でも思い出すと嫌な気持ちになります。

小・中学校普通学級で安心できると感じられた学校(先生)等の対応の例 (これまで共に育つ教育を進める千葉県連絡会に寄せられた、障害のある子の事例から)

1. 中学3年生の我が子は移動に車椅子を使用している。校舎の本館にはエレベーターが設置されているが、理科室(2階)や音楽室(3階)のある別館にはついておらず、移動が困難で授業に遅れるか授業に間に合っても疲労で授業を受けるのは大変な状況である。そこで別館にもエレベーターの設置をお願いしたところ、校長から教育委員会に要望をあげてもらえ、教育委員会からは「状況を知らずにいて大変申し訳なかった。今年度の予算はないが何とか財政当局と協議し、お金をかき集めて今年度中に土質調査をし、設計を終えて、来年度工事を行い最短で設置する。在学中には設置するようにしたい。」と言ってもらえた。
2. 小学校。校長先生は子供の顔を見ると話しかけ、母親にも「〇さんは皆から好かれていて良い性格ですね」など褒める言葉を言う。子供がクラスの一員として受け入れられていると感じて嬉しい。
3. 小学校。子供がメガネを修理している時に、親が「字が見えづらいかもしれない」と連絡帳に書いたところ、テレビ画面を使って字を拡大するなどの配慮をしてくれたので、子供も困ることなく授業を受けることができた。
4. 中学生。担任が時々学校での子どもの様子について連絡をくれるが、学活や担当教科の授業の様子だけでなく他の教科や部活での様子などについても伝えてくれるので、学校全体で子どものことをみている様子が伝わり安心できる。
5. 担任の先生は子どもが頑張っている事や楽しんでいる様子を書いてくれるので、とても安心できます。
6. 中学生。校長から「何ができるかではなく、その時間楽しく過ごせるのが一番。どの子も生きていく力をつけることが大切。」との言葉があり、とても安心できた。
7. 小学生。担任は子どもの立場に立って話してくれる。今までの担任のように怒鳴りつけることもなく、安心できる。
8. 中学生。学校では、手が空いている先生方が協力し合って、子どもの困ったことに対応してくれている。担任の先生一人に、任せているのではないと感じ、とても安心した。
9. 中学生。担任の先生の専門教科は理科だけれど、体育が苦手な子どものために馬跳びを一緒にしたと、あとから、教えてもらいました。
10. 全校歩き遠足。歩けない息子は例年学校の車で先に現地に到着していた。今年は担任から、

骨折等で当日歩けない児童には保護者の送迎をお願いしていると言われた。お断りした所、今年度から学校の車は出来るだけ出さない事になったとのことで、補助の先生がバギーを押してくれ、初めて皆と一緒に行動出来た！保育園では当たり前だった事がやっと実現した！

11. 小学校入学前に、学校に普通学級に通いたいという話をすると、校長先生から「特別なことはできませんが、息子さんが楽しく通えるようにしたいと思います。元気に喜んで通ってきてくれることが何よりです。」と温かい言葉をいただきとても安心した。
12. 就学前に学校に話に行った際、校長・教頭は歩行が苦手なわが子と一緒に校舎内を見学しながら、スロープや手すりの設置など改修を希望する箇所など丁寧に聞いてくださった。その対応に前向きな受け入れの気持ち・姿勢をみることができ安心できた。
13. 校長先生に「担任の先生だけに負担にならないように学校全体で見て下さい。」とお願いをすると「わかりました。」と言ってもらいました。
14. 中学入学前に挨拶に行ったところ、校長から「心配しないで下さい。安心して預けて下さい。何かあったらすぐに連絡して下さい。」と言葉をかけてもらい、担任の先生も「細かい所まで目の届く人がいいでしょう」とおっしゃった通りの人だった。クラスのメンバーも、小学校の先生にお願いしたお友達がたくさんいたので、「感謝」の一言に尽きる。子どもは安心して元気に通っている。
15. 知的障害の娘の入学予定の中学校へ挨拶に行った時、「付き添いはしません」と言ったところ、校長先生が「障害があるから付き添えというのは差別。あり得ない」「学校は勉強以外にも学ぶことが沢山ある。娘さんのペースで大丈夫」と言ってくださり安心した。入学後も付き添い依頼はなく、体育祭などの行事の際も全て学校で考えてくださり、娘も楽しく参加できた。
16. 小学2年生。担任の先生は、初めてお会いしたときに「お母さんからみて〇君の良い所というのはどういう所ですか？」と聞いてくれた。ほめる所へ目を向けてくださる姿勢が嬉しかった。
17. 小学1年生。子どもがおもらしする事を心配する母に対し担任は「気にしなくて大丈夫、他の子もあるよ。保健室に着替えもあるし…」との返事。友だちにからかわれたりすることもなく毎日楽しく学校に行っている。担任がわが子やその友だちに上手に接してくれていると感じる。
18. 度々おもらしをし、そのたびに教頭から「また漏らした！」「病気なんじゃないの！普通級にいるからじゃないの？」と言われていた。しかし進級して担任が変わり、障害があっても自分の生徒の一人だと認めてくださり、必要な配慮を嫌がらずに当たり前にして、子どもの居場所を作ってくれる先生になったところ、子どもは学校が楽しいと言い、おもらしもなく

なった。

19. 全学年で20クラスあり800名ほどの生徒がいる中学校に入学。登下校の送り迎えをしていると、多くの先生や生徒がわが子に向かって「〇君、おはよう」「〇君、さようなら」などと声をかけてくれる。普通の学校生活もこんな暖かい雰囲気があるのだろうと思え安心する。
20. お尻を拭くのがあまい息子の為に、担任の若い男の先生はお尻を拭いてくれている。私からお願ひしたわけではないのに、そこまで気にかけて頂けたことに感謝の思いでいっぱいです。
21. 子どもは低筋張で外反偏平足の為、疲れやすく歩くことが苦手。5年生の移動教室でのハイキングコースを校長先生と手をつないで歩く姿が写真に収められていました。担任の先生からは、子供ががんばって歩いた事、お友だちが励ましてくれていた事、車も使った事を教えて頂きました。みんなと一緒に過ごした移動教室は、とても楽しかった事を子どもから聞くことも出来ました。
22. 校長先生は、「学校に来たら、私たちが責任をもって預かります。」と言い、親に学校での手伝いを依頼することもない。プールも校長先生が我が子を抱っこでかかえて入ってくれた。行事の時も親の付き添いを求められることはなかった。
23. 教育委員会にお願ひした手すりは、すぐに希望通りの場所に取り付けてもらった。手すりのおかげで転ばないで子供一人で昇降口の階段の上り下りが出来るようになった。
24. 小学校1年生。皆と一緒に教室に貼られた我が子の絵はとても幼いぐちゃぐちゃの絵で、絵具の水分で画用紙に穴も空いていたが、担任は「これを描いた時、〇ちゃんは真剣な顔で何度も何度も筆を重ねて、一生懸命描いていたんですよ。」と楽しそうに話してくれた。そういうことを嬉しそうに話してくれる担任の姿がとても嬉しかった。
25. お友達から、娘が先生に毎日何度も同じ話をしていると聞いた。先生にお会いした時に「忙しいのにすみません」と言うと、「大丈夫、それがSちゃんのコミュニケーションですから。それに、私と話したいと思ってくれることが嬉しいです」と言ってくださった。
26. 肢体不自由で、体育はみんなと同じ事ができるわけではないが、体育の通知票の評定は5段階で「3」が付いていた。ちゃんと子どもの意欲や頑張りを認めてくれている先生はすごいと思った。
27. 小学2年生。担任の先生に「ご迷惑をおかけします」と言ったら、「迷惑なんて思っていないので、これからは迷惑という言葉は言わないでくださいね」と笑顔で言ってくださった。
28. 移動やトイレや着替えなどに介助が必要だが、担任だけでなく、校長先生や他の先生方も折りに触れて我が子に声をかけてくれ、手を貸してくれている。

29. 医療的ケアが必要だが、親は付き添いを求められることなく、学校で対応してくれている。
30. 小学5年生。担任の先生が変わり、面談の際に「手伝いやすい、一番前の席でもいいですか？」と聞かれ、不本意だったが先生の気持ちも考え承知した。しかし、後日「Aちゃんが『みんなと同じく、席替え、くじ引きをしたい』と言ったので、くじ引きで席を決めました」と連絡があった。娘の気持ちを尊重してくださる先生だとわかり、嬉しく思った。
31. 小学校に入学したてで落ち着かない行動が多いにもかかわらず、担任はそれを非難することなく、むしろ「給食をたくさん食べました。」「身体測定の着替えが上手にできました。」「お友達と一緒に黒板拭きを頑張りました。」など、本当に小さなことを連絡帳でほめてくれた。家庭でも連絡帳に書いてあったことを話題にしたりして、親子ともに励みになった。
32. 娘は知的障害があるが、先生は、授業参観の時も他の子と同じように手を挙げている娘を指名。前に出て発表した内容が間違えていても「〇〇ちゃんはそう考えたのね」とその考えを尊重し、発表したい気持ちや姿勢を大切にしてくれる。他の保護者の前でそのような姿勢を見せてくれることで、「〇〇ちゃん頑張ってたね」など声をかけられることが多い。クラスの友達の間も温かく、娘は自分に自信を持って学校生活を送れている。
33. 小学5年生。先生は、車イスの我が子が体育もみんなと一緒に参加できるようにと考えてくださり、バスケットのゴールを手作りしたり、縄跳びは抱いて飛んでくださったり、とび箱、サッカー、ドッジボールなど何でもやらせてくれる。できないながらも友達とできる喜びを感じ、子どもは体育が大好きだ。
34. 小学5年生。移動、食事、排泄、着替えなど全介助が必要だが、これまで一度も親の付き添いは求められた事がない。担任や少人数指導の先生、教務主任、養護教諭、教頭、校長、多くの先生が交代で子どもをみてくれている。子どもは給食をよく食べさせてくれる教頭が大好きだし、関わって下さった先生方に校内で会うととても嬉しそうにしている。もし介助員がいたら校内の子どもの居場所は介助員がいる所だけになってしまうだろう。子どもも親も、学校全体で受け入れてもらっているという感覚があり、それはとても安心できることだ。
35. 全介助が必要な車椅子使用の中学1年生。小学校では「特別支援教育を断って『みんなの中にいたい』というなら、お母さんが付き添ってください。」という内容を言われ続けたが、中学校では、水分補給・給食・プールを含め「お母さんさえ心配なければ任せてくれるかな。」と言って下さり、親の付き添いなしのあたりまえの学校生活になった。学校・クラスの一員としてしっかり受け止めて下さる先生方、仲間としてくれる友達の中で楽しく過ごしている。
36. 小学校3年生までの先生からは、親の付き添いを求められたり子どもがクラスから追い出されたり、いつも迷惑がられひどいことを言われてきたが、4年生になって校長や担任が替わったら、そんなことが全くなかった。とても温かく子どもをみてくれるようになり、子どもは明るく登校するようになった。先生にお礼を言うと「〇君も大切なクラスの一員です。」

当たり前のことをしているだけです」と言ってくくださった。安心して学校に送り出せる幸せを感じた。

37. 小学6年生、知的障害の娘。校長先生との面談時に「宿泊学習は付き添いなしで」と話した、「学校でお預かりしているお子さんなのですから学校で連れて行きますよ。全員が楽しめるよう計画しますので、ご心配なことがあれば何でも話してください」と言って下さり、安心しました。
38. 小学校6年生の宿泊学習で、先生方は下見をし、車いすでも皆と同じことをさせてあげたいと色々準備や提案をしてくくださった。地引網や防空壕見学、キャンプファイヤーなどお友だちと一緒に最高の思い出ができ、先生方には本当に感謝です。
39. 中学校、車イスを使っている。子どもは3泊4日の自然教室に参加し、学校側がいろいろな対応の仕方を考えてくれ、移動、バスの乗降、入浴など介助を受けながらみんなと一緒に藤細工やキャンドルサービス、フォークダンスなどたくさんの体験を楽しんできた。帰った時に介助して頂いた方に「有難うございました。」と親がお礼を言った時、「こちらこそとっても楽しい時間を過ごす事が出来ました。有難うございました。」と言って頂いた。とても疲れていると思うのに、こんな言葉を返してくれて本当に嬉しく思った。子どもは家に帰ってから、あれしたこれしたと色々楽しかった話が止まらなかった。
40. 小学校の遠足に、ちゃんと連れていってもらえるか、車イスを誰か押してくれるのかと心配で担任に確認したところ、『全く問題ありませんよ。車イスを押す先生もいますから！』との返答をいただいた。すっかりその体制が『普通』であり、我が子を特別視していないかのような対応の良さだった。実際は先生方の深いご理解とご協力があったの事と思うが、それを『ごく自然』にしてくださっていることにとっても嬉しく思い、感謝した。そして当日、子どもは大満足で帰宅し、たくさん話を聞くことができた。
41. 子どもを偏見なくみる先生なので安心する（例えば知的障害児に対してハサミは危ない、危険な子として禁止するなどのようなことをしない）。
42. 発表の時本人が言いやすいセリフにしてくれた。
43. 年齢相応の普通の声かけをする。
44. 子どもの良いところを見つけてくれる。おかげで子どもはさらに成長した。
45. 靴隠しのいじめにあい男子児童の靴が女子トイレで見つかった時に、靴が見つかったから良いではなく、子どもが家まで気持ちを引きづらないように学校で担任が解決してくれた。
46. 体が不自由な子、学校では皆と同じように縄跳びをしたり遠足にいて綺麗な花びらを拾ったり友達から髪を結ってもらったりと普通に過ごしている。

47. 小学2年生。担任は給食当番で、配膳ができない我が子のために、牛乳やストローを配るかかりをやらせてくれた。連絡帳も、先生が一旦、青鉛筆で下書きしてくれて、それを子どもになぞらせることをしてくれた。子どもが本好きなことを知った先生は、休み時間に、一緒に図書室についてきてくれて、たくさんの本の中から、子どもが読めそうな「ひらがな」だけで書かれた、簡単な本を娘と一緒に探して、借りてくれていた。決して「皆と同じように出来ない子にはやらせない、出来ない子は放っておく、出来ないのだから仕方ない」ではなく、授業参観でも、運動会でも、遠足でも、音楽会でも、子どもだけではなく、クラスの生徒全員、一人ひとりに対して「この子はどうしたら参加できるのか？」をいつも考え、工夫してくださっていた。「真面目で、誠実、熱心で、気が利いて、生徒思いで、面倒見がよい」・・・そういう言葉がぴったりで、他の保護者からも「〇〇先生、ほんとにいい先生だね」と言われるような先生だった。
48. 小学2年生。登校初日、漢字が読めない子の下駄箱に担任が目印のシールを貼ってくれたので子どもはそれが自分の下駄箱であることを一度で覚えた。担任は自分がこれから受け持つ生徒たちについて、事前に他の先生方にも確認して、子どものことを知り、子どもが困らないように工夫してくださっていたようだ。
49. 授業中に子どもが困っていると、担任が「このページ開くんだよ」とか近くのお友達が「ここに名前書くんだよ」とか優しく声をかけてくれている。
50. 小学生。運動会で借り物競争があり「借り物」の札・ルールがわかるか不安だったが、先生方の工夫と連携でしっかり「借り物」をもってゴールできた。
51. 運動会の組体操。わが子のグループだけ曲に合わせて演技できないのではと不安だったが先生は「何とかします、楽しみにしてください」と。当日、少し離れたところにいる先生の指示を見ながらわが子はみんなと一緒にポーズを作り、難しいところはグループの側で不自然でない別のポーズをしながら曲に合わせて演技ができた。先生の工夫と友だちの協力をありがたく思った。
52. 小学1年生。車椅子でトイレや着替え、給食などで介助が必要だが、介助員がつくことなく学校全体で考えてくれて、親の付き添いを求められることはない。校外学習もプール授業もみんなと一緒に。運動会では先生が車椅子を押してくれて、走ったりダンスしたりみんなと同じ種目ができ、とても良かった。
53. 車椅子を使っている。体育の時間、握力が弱くて自分の体重を支えることが難しく足で棒を抑えることも難しかったが、先生が登り棒を自ら握って踏み台にしてくれて登り棒を登らせてくれた。クラスの友達の声援を送ってくれ、子どもはてっぺんまで登ることができた。子どもは満面の笑みでしばらく登り棒のてっぺんから降りてこなかった。先生のおかげで子どもは新しい世界を手に入れることができた。

54. エレベーターが必要なことを伝えると小学校にエレベーターが設置された。中学校は進学に合わせてエレベーターを設置してもらえらることになった。
55. 英語の時間の音読、他の子同様にあててくれ隣の席の子と一緒に音読してくれる。
56. 発表をする時、だんだん声が小さくなって聞こえないところは担任が通訳してくれていた。
57. 担任の先生が、賞状に頑張ったことをたくさん書いてくれた。子どもにも読めるように全部ひらがなで書いてくれ、本人も嬉しそうに読んでいた。
58. 小学1年生。授業参観で子どもの様子を見たら、次の行動の時に担任が一声かけてくれていた。不足部分は席の近くのクラスメートが助けてくれていた。運動会でも他のクラスの先生が誘導してくださっていた。普段の生活でも困っていると、来て助けてくれるそうだ。さらにありがたいと思ったのは、同じ幼稚園だった子ども達だけでなく、クラスや学年を超え、「上級生との活動」の後から6年生5年生が我が子を気にかけてくれるようになったこと。
59. 小学6年生。運動会の応援団で、ハチマキをしないといけませんが、わが子は結べない。どうしているのかと思っていたら、その都度そばにいる人が結んでくれたらしい。できない時はだれもが助けてくれる雰囲気があり、困ることなく楽しく学校に通っている。
60. 小学校、車椅子使用。担任が丁寧にサポートしてくれたおかげで、クラスの子どもたちも、応援してくれたり、少し待ってくれたり、車椅子の操作がしやすいように道を空けるなどを自然に行う心優しいお友達でいっぱいになった。
61. 小学校、車椅子使用。一緒にカルタ取りを楽しみたいからと「〇〇くんルール（読み札を読んだ後20秒間は子どもが取る時間を設けてその後は全員が一斉に取る）」を子どもたち自身で考えた、と担任が親に教えてくれた。
62. 小学校、車椅子使用、授業参観で、子どもの粘土作品を紹介するときに、「電車」の作品にエレベーターも作ってあることについて、担任は「みんな階段をのぼって電車に乗りますが、〇くんは電車に乗るときに階段をつかうことが難しいのでエレベーターを使うんですよ。エレベーターがあることで〇くんはみんなと同じ電車に乗れるんです。だから〇くんは電車の作品を作るときにエレベーターも一緒に作ったんですよ」とバリアフリーの大切さも併せて説明してくれた。
63. 中学校に「ウォシュレット付トイレの設置」をお願いしたところ、合理的配慮ですからと快く承諾してもらった。
64. 中学校の校長先生から「お子さんの事は任せて下さい」と言ってもらった。
65. 中学入学前に学校へ挨拶に行ったら、校長から「大切なお子さんなので預からせていただき

ます」と言われ安心できた。

66. 以前の担任はベテランだったが口先だけで、ヒステリーでストレスを子ども達にぶつけ、子どもをはじきだすことしか考えておらず信用はできなかった。でも、先生になって二年目に担任になった先生は、誰もが差別されることなく皆大切な存在で仲間だと言い続ける先生だった。わが子のことも個性だと言ってくれ、苛められることもなかった。経験がない先生は偏見もなく、親の話しも聞いてくれた。
67. 中学生。暑さに弱く、教室などでも寝転んでしまうことがある。ある時は教室の出入り口に頭を廊下側、足は教室という状態で寝転んでいたらしい。だが担任は「風が通って涼しい場所なんです。足だけ教室に入っていて…。教室にはいないといけないと思っているみたいです」と子どもの気持ちをくんでくれた。
68. 中学生。運動会の障害物競走で、均一に同じ障害物を通過するのではなく、ハードルも高さを変えたものを置き、跳び越えるのが苦手な子は自分の跳べる高さを選んで跳んでもいいし、くぐってもいいなど、子どもたちが自分で選んで通過できるよう工夫されていた。
69. 小学校。教室階に車椅子用トイレがないので教育委員会にお願いしたら、すぐに対応してもらえた。
70. 小学校。まだ年中だが、地元の入学予定の小学校にエレベーター設置のお願いに行ったら、校長と教育委員会の方が設置を約束して、どこに設置するのが使いやすいかを一緒に見て回ってくれた。小学校。教室階に車椅子用トイレがないので教育委員会にお願いしたら、すぐに対応してもらえた。
71. 小学校。まだ年中だが、地元の入学予定の小学校にエレベーター設置のお願いに行ったら、校長と教育委員会の方が設置を約束して、どこに設置するのが使いやすいかを一緒に見て回ってくれた。
72. 小学校。就学予定の小学校に、心配があり子どもの相談に行った。下記のように親身になって相談に乗り、回答をもらうことが出来、安心した。
 - ・「着替えるのが遅い。体育の授業に間に合うか？」→「1年生はみんな時間がかかる。授業前の短い時間ではなく、朝や長い休み時間に皆で着替える」
 - ・「給食の汁物は並々注がれるか？（こぼす事がある）」→「こぼしてしまう子もいる。汁物はお椀に並々入れないで、少なめである。」
 - ・「身長がまだ100cmしかない。トイレや手洗い場は届くか？」→「105cmの子は、洋式しかないトイレではよじ登って用を足している。手洗い場や水飲み場は、踏み台が置いてある。就学前に本人を連れてきて高さを確認することもできる。」

- ・「食事の際、補助箸でないと上手く使えない。」→「1年生は補助箸でないと食べれない子もいる。持ち込みが可能。」

後日、トイレと水飲み場の高さの確認に行ったら、トイレは使えることがわかった。水飲み場と手洗場は蛇口が長いものに改善されていて、我が子も踏み台なしで使えるようになっていて安心した。

73. 小学校。子供同士のトラブルが起きたとき、当事者や、見ていた子供たちに話を聞くのは当然のことと思うが、担任は話がうまく出来ない〇にも向き合ってゆっくり気持ちを聞き出そうとしてくれる。
74. 小学校。担任は字を書くのが好きな〇に紙と鉛筆を渡し思いを書かせてくれた。決して読みやすいとは言えない字でカレンダーの裏紙2枚位の広さを埋め尽くした〇の言葉を、一生懸命拾い読みしてくれた。そして〇が言いたい事をその中に探してくれた。先生は「心の中にたまっている思いがこんなにあるのだな、と思いました」「特に男の子は5年生位になると、言いたい事はたくさん浮かんでくる、だけどそれをうまく言葉に出来ない、それでイライラする、という時期なので」と当たり前〇を他の5年生の男の子と同じに扱ってくれた。
75. 小学校。結果だけで叱ったりせず過程をよく聞いてくれ、謝ることはその場で謝り、仲直りもその日のうちに出来るような機会を作ってくれた。
76. 小学校。4月初め、担任が体育の時間の動画を見せてくれた。鉄棒付近で大勢の体操服姿の子が〇を取り囲んでいる。〇の手を鉄棒と一緒に握る子、お尻を持ち上げる子、足ごと鉄棒を超えさせる子。そして何とか皆の力で鉄棒の周りを回った。「逆上がりが出来た」というより「逆上がりさせてもらった」という状況だったが、先生は「感動しました」と言いながら動画を見せてくれた。
77. 小学校。春の絵を描く会で担任は子供に分かりやすく塗り方を教えてくれ、下絵は、題材となる花の写真を16等分に折り、画用紙に引いた16等分のマスに一つずつ写していく、という方法で描かせてくれた。最初から「出来ないだろう」という思い込みを持たず、根気よく分かりやすく教えてくれたことがとても嬉しかった。
78. 小学校。夏休みの宿題のプリント集は1組も2組も、表紙に大きく「令和の夏 〇〇の夏休み」と〇〇の部分に一人一人の名前が入ったものが配られた。内容もそれぞれの子供の得手不得手を分析した上で1冊1冊少しずつ内容が違ふ、世界に1冊、その子だけのプリント集だった。子供は「〇の夏休み！」と嬉しそうに題名を読み上げては、プリントに取り組んでいた。自分の為に作られた「特別」のものが〇もお友達も嬉しかったのだと思う。先生は子供のやる気を引き出すのがとても上手だと思った。
79. 小学校。総合学習の時間に育てたバケツ稲を収穫し、秋の学習発表会でお米に関する発表

をした。○は脱穀の実演担当で当日は上手に脱穀していた。それを見た担任は「昨日まで難しくてなかなかうまくいかなかったのに、今日は出来たね！すごい！」と褒めてくれた。うまくできないことを心配していたお友達にも「上手にしていたよ」と知らせ、お友達も喜んでくれていた。先生と一緒に頑張ってくれていたお友達が喜ぶだろう、と忘れずに伝えてくれたのだと思った。子供それぞれの気持ちを大切に作る素敵な先生、と感じた。

80. 小学校。床におちている塊（コロッとしていて一見便には見えなかったそう）と○が不自然な歩き方をしていることに気が付いた一部の子供たちが、担任に「○が何かおかしい」というようなことを報告してくれた。先生は落ちていた塊が便、と気づいてからも塊の話には触れず、「トイレを見に行ったら便座が汚れていた。多分（元々）汚れていた便座に気付かず○は座ってしまったのではないかな。足に汚れが付いて気持ち悪いだろうから着替えてくるね」と失敗したことが分からないよう子供たちに説明してくれ、保健室で着替えさせてくれた。からかいの対象となることを心配してくださった対応だったのだと思い、その細やかな心遣いが嬉しかった。
81. 小学校。軽い風邪で休んだ2日目。担任から夕方電話を頂き、連絡事項のあと「○は寝えますか？」と聞かれた。「起きています」「少し話は出来ますか？」という事で受話器を○に渡した。先生と電話で話すなんて初めて。顔を見て言葉をやり取りしてもなかなか分かってもらえない○にとって電話は難易度が高い。心配しながら隣で聞き耳を立てていた。やはり会話とは言い難いやり取りとなったが、先生は「声が聞けて安心しました」と言って下さった。○も「明日は学校に行く！」と張り切っていた。先生の声が聞け、嬉しかったようだ。
82. 小学校。2月に全校でクラス対抗の大縄跳び大会があった。参加者は希望制、ということで縄跳びの出来ない○には関係のない催しだと思っていた。しかし練習の時も本番の日も○が跳ぶときは縄を「蛇」にしてくれ、○も1回“跳んだ”との事。そして再び「通常回し」に戻し、他のクラスと競ったそう。親はクラスメートの子に「クラスの皆『○のせいでやりにくい』など言っていない？」「『あのクラス、一回止めてずるい』とか他のクラスの子に言われない？」と聞いてしまった。けれど、クラスメートの子は「え？そんなこと誰も言わないよ、なんで？○、蛇じゃないと跳べないでしょ？じゃ、どうするの？」と逆に聞かれた。「蛇」を当たり前と思ってくれているお友達の優しさも、先生が少し工夫することで○が参加できるようにしてくださったことも、有り難く思った。
83. 中学校。きょうだい通っていた隣接区の中学校に越境入学することにした。小学校6年の時に補助でついてくれた先生が子どもの入学と共に、その中学へ異動してきた。教育委員会の面談の時は、「中学は補助教員は付かないと思う。」と言われていただけに、ビックリした。中学入学時に細かな引き継ぎをイチからする必要もなく非常に楽だった。
84. 親は学校に何も頼んでいないが、字を書くのが苦手な子どものために板書の写真をプリントアウトして、毎回下さる先生がいる。

85. 定期試験の時は解答用紙がA3サイズに拡大されている。
86. 中学校。体育の授業でサッカーをやった時、歩行器を使っている我が子の為にコーナー付近に自由に動き回れる扇形状のエリアを白線を引いて作ってくれていた。
そこから我が子は何本かシュートを決めたらしい。我が子は嬉しがっていたし、お友達の安全も確保出来（歩行器に足を引っ掛けたり、ぶつけないで済むので）なるほど!と思った。親としては、体育科の先生方が自分たちのやっている事をアピールせずに、さりりと当たり前のようにやって下さっていることにも嬉しさを感じる。
87. 小学校1年生。「まずは皆と同じ事をさせて、同じように接して下さい。必要な時に先生がフォローをお願いします。」と担任の先生にお伝えしていた。子どもは文字がほんのわずかな平仮名と数字しか書けなかったが、初日から当たり前に連絡帳を自分で書かせてくれた。子供は2、3文字わかるものだけ一生懸命板書してきた。足りない文章は先生がペンで書いてなぞらせてくれていた。「OK!」とかわいいハンコも押されていた。以来、1日1日と続けるうちに子供はどんどん連絡事項の板書が出来るようになった。子どもが読みづらい字を書いた時はさりげなく追記して下さったので、連絡事項が分からないことはなかった。
88. 小学校1年生。我が子は話すのが得意ではなく、家庭でほとんど学校の話をしていない。その事に気がつかれた先生は（特にお願いしたわけではないのに）、連絡帳に「今日は●●の学習で●●という発言をしていました。」「楽しそうに●●をしていました。」など、その日の我が子の様子をちょこちょこっと書いてくださるようになった。毎日の学校の様子を知ることが出来、とても安心し、子育てのためになっている。
89. 小学校2年生。1年生のときから持ち上がりの担任の先生は、入学当初から「●●さんだけ特別にならないように、必ずみんなと同じ授業で楽しくできるようにします。もし、分からなくてつまらなくなりそうな時は、私が手助けしてさりげなく工夫をするようにします。」と言い続けてくださいます。
90. 我が子は算数も国語も一般の子よりはるかに理解出来ないことが多いはずなのですが、「授業が分からなくてつまらなくて席を立ってしまうことはありませんか?」と先生に聞いても、「それは一度もないですよ。●さんなりに一生懸命やっていますよ。」という回答。ノートやプリントも、見ると、先生の花まるやスマイルマーク、「がんばりました」などのコメントが沢山。子どもがなぞってかけるように赤ペンで答えが書いてあったり、ガイド線やヒントがあるので、子どもは楽しみながら、一所懸命算数や国語に参加している様子。クラスには37人も児童がいるのに、一体先生はどうやっているのですか?と面談で聞いた所、「一斉にクラス全体に教えた後は、子どもたちにやらせる時間があり、その時は私が全員の中を歩いて回ります。その時にわからない子がいれば1人1人フォローします。その時に、●さんにも同じ時間でやっているだけです。」「ただし、算数は個別フォローに時間をかけたいときもあるので、週に2回、個別指導の先生に来てもらっています。私とその先生2人でクラスの中を

回ってわからない子のフォローに入るので、●さんにもいつもより時間をかけて教えることが出来ます。」との事。授業参観もしたが、先生がおっしゃっていた通り、我が子が分からなそうにしていると、先生は歩きながら通りがかりにちょこちょこっとノートに赤ペンで書いたり、正しい頁を開いてくれたり、「ここに書いたら？」など指差しで示したり、他の子にも指導する中でさりげなくフォローしてくださっていた。我が子は、「分からなくなっても先生がフォローしてくれる。必ず授業に私も参加できる。答えも皆の前で発表出来る。」という授業が当たり前になっているので、家に帰ってもその日に自分が書いたノートやプリントを誇らしげに親に見せてくる。間違っているけど、我が子なりに考えて問題を解いている。子どもの学習の権利が保障されているのはこういうことだと思う。学校でしかできない体験なので、親として本当に嬉しい。

91. 小学校1年生。知的障害のある我が子が、朝の通学路で、数名の上級生の児童に数日間かけて容姿や声、障害の特徴など、皆と違うところをからかわれて、つきまとわれていたという事件が起きた。我が子は逃げたりしていたが、追いかけていた様子。他の学年の子どもが先生に報告して発覚した。報告を受けた先生は、すぐに子どもを呼んで何があったのか話を聞き（子どもはうまく話せないのだが、先生は分からないと決めつけず、出来る限りの聞き取りと心のケアをしたそうだ）、その後、加害者の上級生の担任の先生に相談し、加害者の児童に自分たちのしたことを確認し、それがどういう事なのか、自分だったらどのような気持ちになるか、一緒に考えて指導をしたとのこと。

それだけでなく、クラスの皆にも、「この事を知っていた人はいますか？」と聞き、何人かの児童が手を挙げると、傍観していることもいじめになってしまう事、勇気を持って注意したり、すぐに誰かに話すことがいじめを防ぐことになる事、みんな仲間である事、などを話して下さったそうだ。親にも当日すぐに電話があり、「このような事があった。●さんにつらい思いをさせてしまった。発覚が遅くなり申し分けなかった、二度とこのような事が起きないように子どもたちに指導していきたい。」と報告があった。私が、「貴重な事例だと思うので、他の先生方に知ってほしい」と希望すると、快く承知してくださり、次の職員会議で学校の全ての先生方に口頭で報告して下さった。

障害のある子が「皆と違う」事だからからかわれたり、弱い子が暴力のはけ口の対象にされることは子どもの世界では起きうる事なので、このような事例を表に出して、教訓にしてくださいと担任の先生に感謝しかない。この出来事で、●の小学校のいじめの意識は少しでも変わったと思う。

92. 小学校1年生。入学前に、校長先生に「子どもは知的障害がありますが、出来る子出来ない子という目で見ないで下さい。偏見の目は敏感に他の子どもにも伝わるので、皆と違う子、という目で見ずに、〇〇小学校の大事な児童の1人としてみて下さい。支援教育は一切しませんので、6年間楽しく安全に通えるようにお願いします。」というお手紙を持参して面談に行った。校長先生は読むなり、「お父さんお母さんがここに書かれていることは、私も全く同感です。わが校ではすでにこのようなことは普段から気をつけていることですので、安心

していらして下さい。学校はどんな子も安心して通えるところです。」と真剣におだやかに話して下さい。子どもの障害や心配について聞かれることは一切なく、始終、手紙の内容は当たり前です、という態度だった。これこそが公教育の校長先生の姿だと感動し、安心して楽しみに入学式を迎えた。

93. 小学校2年生。担任の先生は、1年生の入学式の時から「とにかくいつも何でも話してほしい。疑問に思ったこと、私（先生）の対応で気になったことがあれば、いつでも話してほしい。」としつこく言い続けてくださいます。2年生も持ち上がりになりましたが、今でも「いつでも何でも話して下さいね。」と言い続けて下さいます。面談でも、先生の方から、「この学習では●さんにこのように対応していて、●さんはこのように参加していますが、大丈夫ですか？もしお母様が気になることやご要望があれば教えて下さいね。」などいつも対応についての報告が丁寧にあります。こちらは忙しいので申し訳ないと思うのに、面談の時間も多くとってくださいます。

また、先生は子どもの成長をいつも喜んで報告して下さいます。このような先生なので、親も、気になったことは何でも早めに連絡帳や電話で先生に話してきました。子どもの家庭での様子や成長の喜びも、毎日連絡帳で気軽に話すことが出来ました。結果、家庭と学校で連携して、いつも我が子にとって一番良い対応が出来たと思います。親が「我が子は普通学級で安心して堂々と居られるんだ」といつも感じていられるのは、子どもにとってもいい影響でした。親の私も担任の先生が大好きなんだ、ということは子どもにも伝わっていました。子どもは小学校に入ってびっくりするほど成長しました。毎日楽しそうに通っています。担任の先生との信頼関係とあたたかいコミュニケーションは、教育において何にもまさる大切な要素だと実感しました。

人権意識啓発チェックシート

～普通学級での障害のある子への対応～

障害の種類や程度にかかわらず、たくさんの障害のある子が普通学級で学んでいます。どの子も安心して楽しい学校生活が送れるよう、学校における人権意識啓発の一助になることを願ってこの資料を作成しました。

当会に寄せられた事例をもとに作成しており、具体的でわかりやすい記述を心掛けています。

ぜひ研修やいろいろな機会・場面でご活用いただければ幸いです。

① あなたは、どう思いますか？

(小・中学校教師／普通学級での障害のある子への対応)

各項目を読んで、自分の思い当たる項目に印をつける活動をとおして、自らの教育活動を「人権」の視点から振り返ったり、教職員全体で話し合ったり、問題の共有や、共通理解を図る手がかりとして活用することができます。

ここに示した項目がすべて人権侵害や差別にあたるというものではありません。しかし、一見問題がなさそうに見えるものでも、強引に行ったり、長期間続くと問題が生じるものもありますし、当事者サイドに立って想像することで見えてくることもあります。

② 日常生活で気をつけたい教師の言動について

－障害のある子がいる普通学級で、こんなことはないでしょうか？－

学校の中で聞こえてきた教師の言葉をまとめてみました。何気なく発している言葉を、文字で読むことで、人権の視点から見直すことができます。教職員全体に配布し、障害のある子への対応にとどまらず、学校全体の環境を整え、児童・生徒や保護者との円滑な人間関係と信頼関係を築くための資料とすることができます。

共に育つ教育を進める千葉県連絡会

あなたは、どう思いますか？(小・中学校教師/普通学級での障害のある子への対応)

学習	1	知的な遅れがあるのだから、みんなと同じ授業を受けても意味がないと思う。	
	2	この子に手がかかり、他の子が学習する時間がけずられるのはどうかと思う。	
	3	担任はクラス全体を見るので、その子の学習はサポートの職員に任せている。	
	4	「こんな問題もできないなら、ひまわりさん(特別支援学級)に行ってもらおうよ」と言うことがある。	
	5	どうせ読めないで、みんなと同じプリントは渡していない。	
	6	プールの時、本人だけ目立つように違う色の帽子をかぶらせている。	
	7	作品の出来が拙いので、その子の作品は掲示していない。	
	8	合奏が乱れないように、その子の楽器は音が出ないようにしておく。	
	9	着替えに時間がかかるので、その子だけ体操服に着替えずに体育をさせている。	
	10	体育の時間、車椅子の子は他の子と別にして歩行練習をさせている。	
	11	授業中落ち着きがなくなったら、他の部屋に誘導している。	
	12	親に知らせず、特別支援学級で授業を受けさせたり、取り出し授業をしている。	
	13	発達年齢や知能指数がわからないと適切な指導はできないと思う。	
テスト・評価	14	通知表の評定欄に、空欄や斜線がある。	
	15	テストの時他の子が集中できないので、その子だけ別室で受けさせている。	
	16	クラスの平均点が下がるので、テスト結果の集計からその子の分は省いている。	
行事・特別活動	17	部活動への参加は任意なので、障害のある子は入部を遠慮してほしいと思う。	
	18	職場体験の場所を探すのは大変なので、親に探してもらったら良いと思う。	
	19	行事の際、障害のある子には医師の診断書の提出を求めている。	
	20	障害のある子の進路指導は、高校ではなく特別支援学校の高等部を勧めている。	
生活	21	自立のために、着替えや教科の準備や移動などは時間がかかっても手伝わず自分でやらせている。他の子どもにも手伝わないようにと言っている。	
	22	字が書けない子の連絡帳を教師が書いてあげるのは、子どものためにならないと思う。	
	23	危険なので、子どもたちが車椅子を押すことは禁止している。	
	24	子ども同士が協力するように、その子の「お世話係」を決めている。	
	25	人に手伝ってもらったら毎回「ありがとう」と言うよう指導している。	
	26	給食当番や日直などはやらせていない。	
	27	障害のある子は席替えのクジは引かせず、いつも教師の近くの席にしている。	
	28	指や鉛筆などをなめたりするので、みんなに「汚い」と言われても仕方ない。	
	29	写真撮影の時はいつも端っこに並べている。	
	30	高学年になっても甘えてくるので、教師のひざの上に乗せて抱っこしてあげる。	
	31	休み時間用に、その子専用の幼児番組の音楽カセットテープを用意している。	
基本	32	普通学級にいるのだから、配慮はできないし、しなくて良いと思う。	
	33	普通学級ではなく、特別支援学校や特別支援学級に行く方が幸せだと思う。	
	34	食事介助やおむつ交換、着替え、移動介助などは、教師の仕事ではないと思う。	
	35	学校生活や学校行事に、親の付き添いを依頼したことがある。	
その他	36	説明しても理解できないし意思表示もしないので、本人に意見は聞かない。	
	37	うまくしゃべれない子の親からいじめの訴えがあっても、相手の子はやっていないと言うのだから、それは親の思い過ぎだと思う。	
	38	物がなくなった時、真っ先にその子ではないかと疑ったことがある。	
	39	学校内で問題となるような行動がある時は、親に話して家庭できちんと言い聞かせて指導してもらおうと良いと思う。	
	40	保護者会で特別にその子の障害の状況を話してもらおうよう保護者にお願いした。	
	41	その子の汚れた洋服を、兄のクラスに届けて家に持って帰ってもらった。	

日常生活で気をつけたい教師の言動について

－ 障害のある子がいる普通学級で、こんな事はないでしょうか？－

●尊厳を傷つけていませんか？周りの子どもたちも聞いています。

1. 「○さんは何でここにいるの？ひまわりさん（特別支援学級）の方が楽しいよ」
2. 「○ちゃんもみんなと同じように生まれてくれば良かったのにね」
3. 「車椅子なんだから、運動クラブではなく音楽クラブに入りなさい」
4. 「こんな問題もできないなら、ひまわりさん（特別支援学級）に行ってもらおうよ」
5. 「何回言っても分からないんだから！」
6. 「赤ちゃんみたい」「幼稚園児みたい」
7. 「○君は3.8歳だからね～」
8. 給食の食べこぼしに「きったなーい！」
9. 「どうせできないから、○さんはやらなくていいです」「どうせわからないから、○さんはこれでいいです」
10. (オムツ使用の○ちゃん)「あっ、臭い！○ちゃんオシッコしたでしょ、臭うもの」

●対等の関係を妨げていませんか？

11. 障害のある子と同じ班になった子に、「くじ引きだからしょうがない。我慢してね」
12. 「○ちゃんと遊んであげてね」「○さんのお世話をしてあげてね」
13. 「ひまわりさん（特別支援学級の子）には、優しくしなさい」

●職員室のなかで・・・

14. 「この子はいつもそう」「この子にはいつも困っているんです」
15. 欠席の連絡に、「今日は楽だわ」
16. 欠席予定の子が体調が回復し出席するとの電話を受けて、「え！来るんですか？！」

●保護者に対して・・・

17. 「普通学級にいるといじめられますよ」
18. 「私には33人の子どもたちがいるので、○さんのことまで見られません」（34人のクラス）
19. 「ここ（普通学級）は、普通の子が来る場所です」
20. 遠足や宿泊学習などの際、「(お子さんは)参加しますか？どうしますか？」
21. 「お母さん、いつも迷惑かけているので、(他の保護者に)お礼を言っておいてください」
22. 「お母さん、他の保護者から苦情が出ても知りませんよ」

(共に育つ教育を進める千葉県連絡会 人権意識啓発チェックシート②)

千葉県教育委員会と共に育つ教育を進める千葉県連絡会との間で確認してきた事

1. 保護者もしくは当事者が強迫とを感じるような就学指導は許されてはならない。1996. 12
2. 就学については、保護者の意向に反して行われることは許されない。1998. 3
3. 市町村教育委員会が望んでも、保護者の同意がなければ、県教育委員会は特別支援学校への入学手続きは行っていない。2007. 11
4. 就学相談及び就学指導は、決して強制・強要されてはならない。1996. 12
5. 市町村の教育委員会等は本人や保護者の理解を得て就学指導を円滑に行う。したがって、保護者に何ら説明なしに就学指導委員会に諮ることはあってはならない。2003. 6
6. 保護者の同意なく、特別支援学級籍にしたり、通級や取り出し授業をしたり、特別支援教育関係者による巡回指導等を行うことは、ありえない。2010. 2
7. 「通常の学級に在籍する障害児への対応について、障害の種類や程度にかかわらず、どの子も安心して楽しい学校生活を送れるようにしなければならない」これが県の基本的な方針である。2002. 9
8. 学校現場における障害児の人権侵害はあってはならない。2000. 12
9. いったん入学したからにはその学校の児童生徒であり、一義的に学校がみるべきである。親による付き添いや介助は義務ではなく強制しない。1996. 12
10. 親の付き添いを普通学級就学の条件にすることは、あってはならない。2007. 11
11. 親が付き添わないことで教育が受けられないことは、基本的にあってはならない。2006. 8
12. 特に必要でないにもかかわらず、障害があることを理由に付き添い者の同行を求めるなどの条件を付けたり、特に支障がないにもかかわらず、障害があることを理由に学校行事への参加を拒んだりすることは不当な差別的取り扱いに当たり得るものと認識している。2018. 9
13. 義務教育において、障害のある児童生徒が林間学校や修学旅行に行く場合、通常介助員等を派遣する費用をその保護者に求めることはない。2008. 11
14. 授業を受ける権利はどの子にも保障されている。1998. 11
15. 授業を受け人間関係も作っているのに、通知表の空欄・斜線は望ましくない。1998. 11

16. 問題行動の子どもたちに学校全体の体制で臨むのは当然のこと。1998. 11
17. 障害児を受け入れる気持ちのない担任については、教員の資質の問題である。1998. 11
18. 一般的に、学校内で、お漏らしをした子どもや食事に関する援助が必要な子どもに対して適切な対応・援助を行うことは、教員の教育活動の一つである。(食事介助が必要な子どもに) 給食を食べさせることも教育活動の一つである。2006. 2
19. 一般的に、学校生活において、目の前に食事介助やおむつ交換が必要な子どもがいて放置し適切な対応を行わないのは、不適切な指導である。食事介助やおむつ交換が必要な子どもに対し、食事介助やおむつ交換をしないということはあってはならない。2006. 2
20. 水分補給の必要な子、自分で動けない子に対し、学校で水分補給しない、体位を変えないということは、基本的に不適切である。2006. 2
21. 薬(リタリン・コンサータ等)については、教師が服薬を勧めるものではない。学校や教師の都合で子どもをおとなしくさせるという発想自体があってはならない。2005. 3
22. 子どもに障害があって、いじめられたことをうまく訴えられなかったとしても、いじめはぜったい許されないことであり、対応は必ずしなければならないことは当然である。2007. 3
23. 児童生徒に対する人権侵害の訴えがあった場合、(県教委は) 今後とも速やかに事実を把握し、適切な対応をしていく。2000. 12